

ホッピーだより

平成19年 11月 1日 (2007/ 11/ 1)

No. 276



むかわ町立穂別博物館

054-0211

北海道勇払郡むかわ町穂別80-6

0145-45-3141 (Tel & Fax)

クビナガリュウのホッピー

モサゴンのひみつ6

「モササウルスのウロコ」

展示室にあるティロサウルスの復元模型は、穂別の化石を元に実物大で再現しました。その体はウロコでおおわれていますが、その形はどのようにして分かったのでしょうか？

1. ウロコの化石が見つかった
2. 今のトカゲを参考にした
3. クビナガリュウのウロコを参考にした

答えは、1です。アメリカでウロコの化石が見つかっています。ティロサウルスのウロコは、長さ3.3mm・幅2.5mmほどのひし形で、中央に盛り上がったすじがありました。

クビナガリュウにはウロコはなかったようです。ない方が水の抵抗は少なくなります。ハ虫類なので元々はウロコがありましたが、水中で生活しやすい姿に変わったようです。

しかし、ウロコの化石が見つかったのは、割と古いモササウルス類です。もしかしたらより新しい時代の種類では、ウロコはなくなったのかも知れない、と考える研究者もいます。

(学芸員 桜井)

ティロサウルスのウロコ→
(展示室 復元模型)



秋の特別展「鉱業のまち、ほべつ -穂別の炭鉱と鉱山の歴史-」

会期：11月3日（土・文化の日）～12月2日（日）

会場：穂別博物館 特別展示室

主催：むかわ町立穂別博物館 協力：北海道開拓記念館

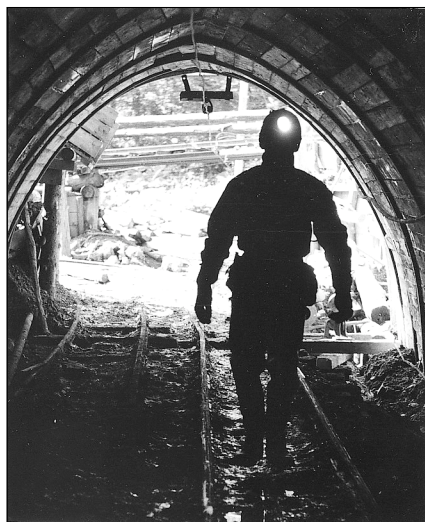
内容：むかし、穂別は「鉱業のまち」と呼ばれていました。

いくつも炭鉱があり、クロムや石油なども採掘されていました。

かつて栄えた、穂別の炭鉱と鉱山の歴史について紹介します。

料金：無料（展示室の見学には入館料が必要です）

チタン鉄鉱の沢



穂別炭鉱 坑道入口
(昭和30年代)

現在の坑口あと



石灰岩の沢



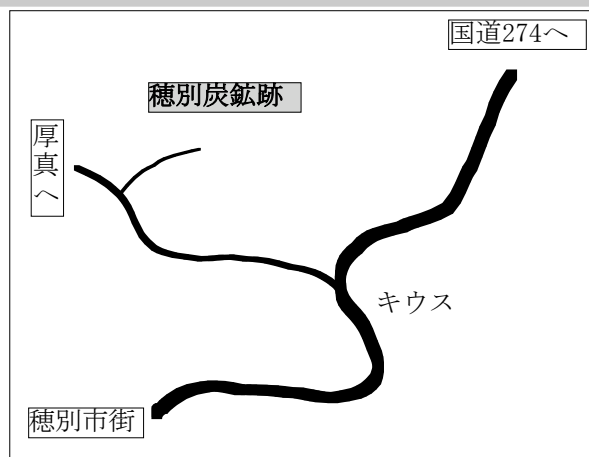
むかし、

穂別に炭鉱があった・・・



10月のある晴れた日、当時炭鉱で働いていたという高橋博志氏（博物館協力会）に案内をお願いし穂別炭鉱跡地を訪れました。

穂別市街地から国道274号に向かって5㎞ほど進み（キウス）左折、さらに5㎞ほど林道を進むと（途中から徒歩）1本の坑道跡に辿り着きます。そこは当時石炭が露出していて、ピカピカ光っていたといいます。穂別炭鉱全体の推定埋蔵量が3億5000万ト、採炭可能量2000万ト。それがどれだ



＜採炭地跡＞今は見る影もなく・・・

燃料といえば石油や電気を思い浮かべる現在、石炭ストーブを知らない世代も増えてきました。しかし、今日の何不自由ない生活にいたるまでの基盤づくりを担ってくれた大きな力のひとつが、確かに石炭でありました。そして「黒いダイヤ」ともいわれたその表現のなかに、人々の石炭に対する思いの大きさが、強く表わされているようにも思えるのです。

＝穂別炭鉱：昭和23～40年操業＝

けの量なのか素人にはピンときませんでしたが、今では土におおわれてしまったその崖は、人々の夢と希望が重なって、さらに輝いて見えた事でしょう。足元にわずかにあった石炭の破片のみがこの頃の名残と言えるでしょうか。

それにしても今ではささやぶや雑草、雑木林におおわれてしまった場所に、ほんの40年前に数々の関連施設や住宅、未承認ながら小学校も建て、さらには電車までを通したというのです。



当時のようすを細かく説明して下さった高橋氏（左）

11/3（文化の日）・23（勤労感謝の日）は、むかわ町民は無料で見学できます

むかわの化石や生き物

オカモノアラガイ

少し細長いカラをもった、小さめのカタツムリです。池や沼には、同じようなカラをもったモノアラガイ類がいますが、別な種類です。

（2005年6月、穂別稲里）



2007年11月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	③
4	⑤	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	②③	24
25	26	27	28	29	30	

11月のこよみ

- ・休館日は、11/5、12、19、26です
- ・11/3（文化の日）と23（勤労感謝の日）は町民無料入館日です

■：休館日

○：町民無料入館日

穂別で石炭を掘っていたのは、夕張や三笠と同じ地層です。クロム鉄鉱は、蛇紋岩のそばにあります。石油は、地下の構造に関わっています。その他、チタン鉄鉱や石灰岩など、これら鉱物資源は、穂別の地質に深い関わりがあります。（さ）